

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105214
法人名	株式会社ファミリーケア
事業所名	グループホームいまづ
所在地	松山市西垣生町1184-6
自己評価作成日	H23年6月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「温」=あたたかいケアの実践にむけ、目配り、気配り、心配りを目標に、日々、努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古くから住民同志のつながりが深い地域に開設された事業所は、利用者や職員も地元住民が多く、地域に根ざした事業所となっている。デイサービスセンターやヘルパーステーションも併設されている。職員の異動も少なく、馴染みの関係が継続できている。常勤の看護師といつでも往診可能な協力医がおり、重度化や急変時にも対応できる体制ができている。利用者が住み慣れた地域で、最期まで安心してその人らしく過ごせるよう、深い信頼関係をもとに温もりある認知症ケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	ファミリーケアグループホームいまづ
(ユニット名)	うめ
記入者(管理者)	
氏名	亀本 知子
評価完了日	H23年6月13日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員一人一人が理念に沿った温かい介護の実現にむけて日々のケアにあたっています</p> <p>(外部評価) 法人の理念をもとに、温かな家庭的雰囲気の中で生活できるよう「温」を事業所の基本理念として掲げ、玄関等の見えやすい所に掲示し、全職員で共有し実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 天気のいい日には、近所のスーパーに散歩がてら買い物に出ている。近所の神社に散歩に行ったりしている</p> <p>(外部評価) 事業所は住民同志のつながりが深い地域にあり、開設者をはじめ職員、利用者、家族も地元出身者が多い。毎年クリスマスに、近くの幼稚園児が訪問してくれたり、幼稚園の七夕祭りに利用者が参加する等、地域の子供たちとも楽しく交流できている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 入居の間合せ時や電話での相談には、他の施設や、サービス等について説明をしている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) H23年4月より、2ヶ月に1回の開催を目指している。	
			(外部評価) 今年度は、4月から2か月ごとに開催している。市職員、地域包括支援センター職員、地域代表、家族に出席してもらい、災害対応や虐待防止等について話し合っている。	引き続き家族や地域住民等へ参加を呼びかけ一人でも多く参加してもらい、活発な意見交換の場となるよう期待したい。会議内容は参加できなかった家族や職員にも報告したり情報共有を図るため、記録の様式や記載方法を見直し、より分かりやすい会議録になるよう工夫を望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の実施する研修に参加したり、担当の方と話しをする機会もあり情報交換をしている。	
			(外部評価) 市職員と地域包括支援センター職員は2か月ごとの運営推進会議に参加している。保険者としてホームの状況を把握し、情報提供や助言、指導を行っている。事業所側も積極的に連携するよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) その時の状況によって、鍵を掛けていることもあるが、声掛けやかかわりで落ち着くこともあり、職員も鍵をかけない工夫をしている	
			(外部評価) 利用者の安全を確保しながら、身体拘束のないケアに取り組んでいる。事業所内に虐待防止委員会を立ち上げ、勉強会をする等、全職員が利用者の権利を守るために努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングで、虐待、拘束について勉強会を行い、声かけの仕方などを職員全員で考えた。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は、該当する方がいないが、機会があるごとに職員には説明し、理解を深めている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に、入院、退居、利用料金、医療連携加算、看取りについてのホームの方針等は時間をとって説明している	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方には、訪問時や電話などで日々の様子などを報告し何でも言えるような関係作りをしている。  (外部評価) 近所に住み毎日面会に来る家族もいるが、あまり面会のない家族にも毎月1回は文書を送り状況報告している。家族から意見や要望があった場合は、些細なことでも記録し情報を共有するよう取り組んでいる。必要に応じてカンファレンスを行い家族に説明する等、信頼関係を大切に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回ミーティングを行い職員で話し合う機会を設けている。また、日頃から、コミュニケーションを密にし要望や不満を聞くようにしている。</p> <p>(外部評価) 毎月1回代表者を交え全職員でミーティングを行い、意見交換をしている。職員は年齢や性別、資格や経験等異なるが共に協力し合い、常に向上心をもって業務に取り組んでいる。退職者が少なく、育児休暇等にも配慮がされており働きやすい環境が整備されている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 有休や、公休などできる限り職員の希望に添えるようにしている。又、職員の、能力により、ステップアップのため、の研修の受講、職員の事情等により、社内の他の事業所への、移動なども考慮している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) ホーム内で、研修がメインだが、ホーム外での研修や、新人研修も行っていきたい。ステップアップのための研修には、参加できている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 社協や包括が開催する研修などに参加している 年2回、西地区のグループホームが集まって、意見を交換できる場所がもっている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 今までの生活史や現在の状況などの聞き取りを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に話し合いを行い充分な聞き取りをし、入居後すぐに暫定プランを作って対応している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前訪問で伺った内容を元に、職員間で話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ケアする側、される側という観点はもたず、みんなで協力し共に生活していけるよう心がけている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日ごろの生活の様子を来訪時や電話や手紙等で報告し、相談しながらケアを行っていくことで、家族の方にも協力をしてもらえるよう働きかけている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の家族が近所に暮らしている方もおり、面会も定期的に来てもらっている。近所の方や、知人の方の面会に来てもらっている。  (外部評価) 利用者や家族、職員共に地元住民が多く、入居後も馴染みの関係が継続されている。入居前、併設のデイサービスを利用していただいていた利用者もおり、デイサービス利用者との交流も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) おやつや食事の時間は職員も一緒に入り、会話を楽しむようにしている。仲の良い利用者のかた同士で、フロアで過ごされる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了した方の家族の方が、時々ホームに遊びに来てくれている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、表情や言葉から把握するよう努めている。  (外部評価) 職員は利用者ごとの担当制にしており、きめ細かいニーズの把握に努めている。把握した情報は記録し、全職員が共有できるよう工夫している。入居期間が長くなり重度化した利用者も、ホームで共に暮らす家族として対応し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居の時に、それまでの生活の様子を伺って、ホームに入ってからでも、それまでの生活に沿って日々の暮らしが出来るよう支援している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝、バイタルチェックを行い、その日の体調や状態にあわせ声かけを行っている	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の要望、家族の方の意向をふまえ、職員全員でカンファレンスを行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望を尊重し、各担当職員や計画作成担当者、看護師等の関係者で話し合って介護計画を作成している。計画に沿ったサービスの実施状況は各担当者が責任をもって記録するようにしており、毎月モニタリングをしている。医療ニーズに関しては、看護師が主治医と連携し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子の変化は、生活記録に記入している。本人の状況、状態の把握が、できるよう、細かく記録に残すようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や、家族の方の状況で通院の送迎を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 訪問美容のサービスを利用している。 運営推進会議には、民生委員の方や近所の方に参加いただき交流が出来るようになった	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) いままでに、かかっていた医療機関に引き続き通院し ている方はもいるが、特に無い方は、3つの医療機関か ら選択していただいている。心療内科、歯科往診に來 ていただいている。	
			(外部評価) 複数の協力医療機関があり、家族の希望に合わせて入 居時に説明し、同意を得て支援している。常勤の看護 師が配置され医療連携体制ができている。いつでも往 診可能な協力医もおり、利用者や家族、職員にとって 大きな安心となっている。服用中の薬剤情報は利用者 ごとに一目でわかるようファイリングされ、緊急時も スムーズに対応できている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職を配置している。毎日のバイタル測定を行い健 康状態や状態の変化などの支援を行えるようにしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入院時は、情報提供書を作成し、医療機関に提出して いる。入院後は、電話で様子を伺ったり、医療機関と の、カンファレンスに参加している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の方の意向を伺い、主治医の意見をふま えた上で職員で話し合いを行い方針を考えている。	
			(外部評価) 重度化や終末期、急変時の指針、マニュアルが整備さ れ入居時に利用者や家族に説明をし、同意を得て支援 している。協力医や管理者、看護師、介護職員が協力 し今まで数例看取りを行った経験がある。管理者は豊 富な経験を活かし、家族との信頼関係を大切にしま ながら話し合いを重ね、利用者と家族が望む最期が迎 えられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急法、急変時についての勉強会を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力をえて、年に2回、訓練を行っている。災害にそなえて備蓄リストの作成や、定期的に業者の方に設備の点検をしてもらっている。H23年度は、9月、3月に予定している。  (外部評価) 年2回消防署の指導を得て、併設のデイサービスと協力して訓練を実施している。地域の防災委員会に出席し、今年10月の合同避難訓練にも参加予定である。災害発生時地域住民の避難場所になることを想定し、非常食等の備蓄も検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) そのかたの気持ちを第一に考えられるよう、ホームの理念である「温」＝暖かいケアを目標に日々のケアにあたっている。  (外部評価) 管理者は職員に対し、馴染みが慣れ合いにならないよう指導している。利用者に対する声かけは幼児言葉を使わないなど、周囲も不快にならないよう節度ある対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人のニーズの把握に努め、その中で、いくつかの選択肢を用意し、その中から、選択してもらうようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の大まかな流れは決まっているが、その日の体調や状態をみて、声かけをしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に散髪に来てもらい、個人の希望で、カットやカラー、パーマなどあててもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下膳やテーブル拭きなど、できることをしていただいている。その日の体調や嚥下状態によって、食事の形態を変えたり、メニューを変えたりしている。  (外部評価) メニューは1週間毎にユニットで交互に作り管理者が確認している。職員の年齢や好みが違うためバリエーションに富んだメニューとなっている。利用者の食欲も増し、ほとんどの利用者は介助なしでほぼ全量摂取できている。職員も同じものを一緒に食べながら、利用者の状況等さりげなく見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々にあった量や形態で食事を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアの週間付けを目指し、声かけ、誘導を行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを職員が把握し、時間を見て、トイレの声かけやパットの交換、おむつ交換をおこなっている。可能な限り、トイレで排泄できるよう努めている。	
			(外部評価) 職員が利用者個々の排泄パターンを把握して、さりげなく誘導しトイレでの排泄を支援している。発語のない利用者の僅かなサインも見逃さないよう注意し、羞恥心にも配慮し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) バナナやヨーグルト、お芋、ごぼうなど繊維の多い食べ物の提供している。 水分量にも注意している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間や入浴日の希望など聞くようにしている	
			(外部評価) 入浴の順番にも配慮する等、利用者一人ひとりの希望に合わせて入浴ができるよう支援している。入浴の苦手な利用者へも声かけ等工夫し、定期的に入浴し清潔が保てるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人のペースで居室で過ごされている。 昼夜逆転しないよう気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の内容が変わったときは、申し送りノートに記入し、職員全員で共有できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) フローアや居室の掃除や洗濯物など、動ける方が協力して行ってくれている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所のスーパーに、その日の体調や、天候の状態をみて、買い物に出等、外に出る機会を設けている。	
			(外部評価) 利用者の状態に合わせて、近くのスーパーや神社に散歩に出かけ地域の人と交流したり、数人ずつに分かれて花見に行ったりしている。回転寿司などの外食はよい気分転換になり喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の方の了解のもと、自分でお金を管理されている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の方に手紙を書いたり、遠方の家族に連絡され近況を報告されている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホールの電気は、明るすぎないように、注意している。ホールの温度もその都度、寒くないか確認し、利用者の方の適温にあわすようにしている。	
			(外部評価) デイサービスセンターの2階にあり、玄関を入ると2ユニットが左右対称に配置され、ユニット間の行き来がしやすくなっている。居間兼食堂は明るく広々しており、大きなテーブルと座りやすいいすがあり、ゆったり過ごすことができる。トイレ、浴室も清潔で利用者が気持ちよく使用できるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアーに2箇所ソファを置き、仲の良い利用者で過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇や棚、テレビなど、思い思いのものを持ち込まれている。	
			(外部評価) 各居室のドアに名前が書かれ、間違わないよう配慮している。大きめのクローゼットと介護用ベッド、タンスが備え付けられ、すっきりときれいに整理されている。手作りの小物や思い出の写真等も飾られ、心和む落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室のドアに名前を貼ったり、目印をつけるなどしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105214
法人名	株式会社 ファミリーケア
事業所名	ファミリーケア垣生 グループホームいまづ
所在地	松山市西垣生町1184-6
自己評価作成日	H23年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のニーズを大切に考え、積極的にそれに取り組み、利用者の方や、ご家族に満足していただけるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古くから住民同志のつながりが深い地域に開設された事業所は、利用者や職員も地元住民が多く、地域に根ざした事業所となっている。デイサービスセンターやヘルパーステーションも併設されている。職員の異動も少なく、馴染みの関係が継続できている。常勤の看護師といつでも往診可能な協力医がおり、重度化や急変時にも対応できる体制ができている。利用者が住み慣れた地域で、最期まで安心してその人らしく過ごせるよう、深い信頼関係をもとに温もりある認知症ケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ファミリーケアグループホームいまづ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)  
氏名 浅原 健二

評価完了日 23 年 6月 17 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員一人一人が理念に沿った温かい介護の実現にむけて日々のケアにあたっています</p> <p>(外部評価) 法人の理念をもとに、温かな家庭的雰囲気の中で生活できるよう「温」を事業所の基本理念として掲げ、玄関等の見えやすい所に掲示し、全職員で共有し実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 天気のいい日には、近所のスーパーに散歩がてら買い物に出ている。近所の神社に散歩に行ったりして、地域の方と挨拶や会話をするようにこころがけている。</p> <p>(外部評価) 事業所は住民同志のつながりが深い地域にあり、開設者をはじめ職員、利用者、家族も地元出身者が多い。毎年クリスマスに、近くの幼稚園児が訪問してくれたり、幼稚園の七夕祭りに利用者が参加する等、地域の子供たちとも楽しく交流できている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 入居の間合せ時や電話での相談には、他の施設や、サービス等について説明をしている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) H23年4月より、2ヶ月に1回の開催を目指している。	
			(外部評価) 今年度は、4月から2か月ごとに開催している。市職員、地域包括支援センター職員、地域代表、家族に出席してもらい、災害対応や虐待防止等について話し合っている。	引き続き家族や地域住民等へ参加を呼びかけ一人でも多く参加してもらい、活発な意見交換の場となるよう期待したい。会議内容は参加できなかった家族や職員にも報告したり情報共有を図るため、記録の様式や記載方法を見直し、より分かりやすい会議録になるよう工夫を望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の実施する研修に参加したり、担当の方と話しをする機会もあり情報交換をしている。	
			(外部評価) 市職員と地域包括支援センター職員は2か月ごとの運営推進会議に参加している。保険者としてホームの状況を把握し、情報提供や助言、指導を行っている。事業所側も積極的に連携するよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) その時の状況によって、鍵を掛けていることもあるが、声掛けやかかわりで落ち着くこともあり、職員も鍵をかけない工夫をしている	
			(外部評価) 利用者の安全を確保しながら、身体拘束のないケアに取り組んでいる。事業所内に虐待防止委員会を立ち上げ、勉強会をする等、全職員が利用者の権利を守るために努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待には、言葉の暴力も含まれることを職員には意識付けして、みんなで考えるようにしている。ミーティングで、虐待、拘束について勉強会を行い、声かけの仕方などを職員全員で考えるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は、該当する方がいないが、機会があるごとに職員には説明し、理解を深めている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に、入院、退居、利用料金、医療連携加算、看取りについてのホームの方針等は時間をとって説明している	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の方には、訪問時や電話などで日々の様子などを報告し何でも言えるような関係作りをしている	
			(外部評価) 近所に住み毎日面会に来る家族もいるが、あまり面会のない家族にも毎月1回は文書を送り状況報告している。家族から意見や要望があった場合は、些細なことでも記録し情報を共有するよう取り組んでいる。必要に応じてカンファレンスを行い家族に説明する等、信頼関係を大切に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回ミーティングを行い職員で話し合う機会を設けている。また、日頃から、コミュニケーションを密にし要望や不満を聞くようにしている  (外部評価) 毎月1回代表者を交え全職員でミーティングを行い、意見交換をしている。職員は年齢や性別、資格や経験等異なるが共に協力し合い、常に向上心をもって業務に取り組んでいる。退職者が少なく、育児休暇等にも配慮がされており働きやすい環境が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有休や、公休などできる限り職員の希望に添えるようにしている。また、能力によりステップアップのための研修の受講、ご本人の事情等により、社内の他の事業所（デイ他）への移動も考慮する。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ホーム内のできるかぎり、研修がメインだが、ホーム外での研修や、新人研修も行っていきたい。ステップアップのための研修は必要に応じて参加できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 社協や包括が開催する研修などに参加している 年2回、西地区のグループホームが集まって、意見を交換できる場所がもっている	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) できる限り情報を集め、ご本人の状況の把握に努め、不安を軽減できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) フェイスシート等での情報主集と共に、可能な限りご家族の不安や希望等を伺い、それに沿った支援を行うことで信頼を得るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人の状況や当面必要な援助を把握し「暫定プラン」により、円滑なサービス利用に繋がるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に食事をしたり、気軽に声を掛け合える雰囲気を作り、能力におうじて、掃除や洗濯物干し、取り込みなどを一緒に行えるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日ごろの状況に応じ、電話での連絡や相談など、可能な限り家族にも協力を頂くようにしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族や知人との面会の機会を持てるように努め、ご家族との外出や外泊もできるようにしている。  (外部評価) 利用者や家族、職員共に地元住民が多く、入居後も馴染みの関係が継続されている。入居前、併設のデイサービスを利用していただいていた利用者もあり、デイサービス利用者との交流も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日ごろから利用者相互の关系到気を配り、ご自分で関係をつくるのは困難な方は、職員が間に立って関係作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 今のところ該当する方はいないが、該当する方が今後あれば、対応できるように努める。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中の本人との会話や家族の話し、態度や表情や・言葉から把握するよう努めている	
			(外部評価) 職員は利用者ごとの担当制にしており、きめ細かいニーズの把握に努めている。把握した情報は記録し、全職員が共有できるよう工夫している。入居期間が長くなり重度化した利用者も、ホームで共に暮らす家族として対応し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居の時に、それまでの生活の様子を伺って、ホームに入ってからでも、それまでの生活に沿って日々の暮らしが出来るよう支援している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝、バイタルチェックを行い、その日の体調や状態にあわせ声かけを行い、朝・夕の申し送り時に確実に引き継ぎ、スタッフ全員が把握できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ミーティングの場でケアプランの検討を行うなど、できるだけ多くの意見を反映させるとともに、利用者・ご家族の意見も取り入れ、利用者に必要なケアが行えるよう努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望を尊重し、各担当職員や計画作成担当者、看護師等の関係者で話し合って介護計画を作成している。計画に沿ったサービスの実施状況は各担当者が責任をもって記録するようにしており、毎月モニタリングをしている。医療ニーズに関しては、看護師が主治医と連携し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録にできるだけ、本人の状況がわかるように記録することを心がけ、それによるモニタリングを通じて、ケアプラン見直しにつなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や、家族の方の状況や希望により、往診のみでなく、かかりつけの医師にかかれるよう、通院の送迎を行っている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 訪問美容のサービスを利用している。 運営推進会議には、民生委員の方や近所の方に参加いただき交流が出来るようになった。地区内の幼稚園との交流もある。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) いままでに、かかっていた医療機関に引き続き通院し ている方はもいるが、特に無い方は、3つの医療機関か ら選択していただいている。心療内科、歯科往診に來 ていただいている。	
			(外部評価) 複数の協力医療機関があり、家族の希望に合わせて入 居時に説明し、同意を得て支援している。常勤の看護 師が配置され医療連携体制ができています。いつでも往 診可能な協力医もおり、利用者や家族、職員にとって 大きな安心となっている。服用中の薬剤情報は利用者 ごとに一目でわかるようファイリングされ、緊急時も スムーズに対応できている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職を配置している。毎日のバイタル測定を行い健 康状態や状態の変化などの支援を行えるようにしてい る	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入院時は、情報提供書を作成し、医療機関に提出して いる。入院後は、電話で様子を伺ったり、医療機関の 求めに応じてカンファレンス等に参加できるようにし ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に看取りや重度化した場合の、家族の意向を確 認し、同意を頂くようにしている。実際に重度化され た場合は、再度、医師・家族とスタッフで話し合いを 行うようにしている。	
			(外部評価) 重度化や終末期、急変時の指針、マニュアルが整備さ れ入居時に利用者や家族に説明をし、同意を得て支援 している。協力医や管理者、看護師、介護職員が協力 し今まで数例看取りを行った経験がある。管理者は豊 富な経験を活かし、家族との信頼関係を大切にしながら 話し合いを重ね、利用者と家族が望む最期を迎えら れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急法の学習や、急変時の対応についての勉強会を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力をえて、年に2回、訓練を行っている。災害にそなえて備蓄リストの作成や、定期的に業者の方に設備の点検をしてもらっている  (外部評価) 年2回消防署の指導を得て、併設のデイサービスと協力して訓練を実施している。地域の防災委員会に出席し、今年10月の合同避難訓練にも参加予定である。災害発生時地域住民の避難場所になることを想定し、非常食等の備蓄も検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) そのかたの気持ちを第一に考えられるよう、ホームの理念である「温」＝暖かいケアを目標に日々のケアにあたっている  (外部評価) 管理者は職員に対し、馴染みが慣れ合いにならないよう指導している。利用者に対する声かけは幼児言葉を使わないなど、周囲も不快にならないよう節度ある対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人のニーズの把握に努め、それに沿った支援ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の大まかな流れは決まっているが、その日の体調や状態をみて、対応をしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に散髪に来てもらい、個人の希望で、カットやカラー、パーマなどあててもらっている。衣類もなるべく本人に選んでもらうようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下膳やテーブル拭きなど、できることをしていただいている。その日の体調や嚥下状態によって、食事の形態を変えたり、メニューを変えたりしている。食事もスタッフと利用者が共にして、楽しく食べられるよう努めている。  (外部評価) メニューは1週間毎にユニットで交互に作り管理者が確認している。職員の年齢や好みが違うためバリエーションに富んだメニューとなっている。利用者の食欲も増し、ほとんどの利用者は介助なしでほぼ全量摂取できている。職員も同じものを一緒に食べながら、利用者の状況等さりげなく見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 御茶ゼリーや一口大に切るなど、個々にあった量や形態で食事を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご本人の残存能力を活かして、できるところは、行っただき、確認を行っている。ご自分で出来ない方は介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを職員が把握し、時間を見て、トイレの声かけやおむつ交換をおこなっている。可能な限り、トイレでの排泄を促している。	
			(外部評価) 職員が利用者個々の排泄パターンを把握して、さりげなく誘導しトイレでの排泄を支援している。発語のない利用者の僅かなサインも見逃さないよう注意し、羞恥心にも配慮し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) バナナやヨーグルト、お芋、ごぼうなど繊維の多い食べ物の提供している 水分量にも注意し、適度な運動も促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間や入浴日の希望など聞き、できるだけそれに浴えるように努めている。	
			(外部評価) 入浴の順番にも配慮する等、利用者一人ひとりの希望に合わせて入浴ができるよう支援している。入浴の苦手な利用者へも声かけ等工夫し、定期的に入浴し清潔が保てるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人のペースで居室で過ごされている 昼夜逆転しないよう気をつけている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の内容が変わったときは、申し送りノートに記入し、職員全員で共有できるようにしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) フローアや居室の掃除、ゴミだしや洗濯物など、動ける方が協力して行ったださっている。必ず、感謝の言葉をお伝えし、やりがいをかんじていただくようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所のスーパーに、その日の体調や、天候の状態をみて、買い物に出掛けるなど、外出の機会をつくるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の状態に合わせて、近くのスーパーや神社に散歩に出かけ地域の人と交流したり、数人ずつに分かれて花見に行ったりしている。回転寿司などの外食はよい気分転換になり喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の方の了解のもと、自分でお金を管理されている方もいる。ご自分で出来る方が少ないので、了解を得て管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の方に手紙を書いたり、遠方の家族に連絡され近況を報告されている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホールの電気は、明るすぎないよう、注意している。ホールの温度もその都度、寒くないか確認し、利用者の方の適温にあわすようにしている	
			(外部評価) デイサービスセンターの2階にあり、玄関を入ると2ユニットが左右対称に配置され、ユニット間の行き来がしやすくなっている。居間兼食堂は明るく広々しており、大きなテーブルと座りやすいいすがあり、ゆったり過ごすことができる。トイレ、浴室も清潔で利用者が気持ちよく使用できるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアーに2箇所ソファを置き、仲の良い利用者で過ごせるようにしている	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 棚、テレビや本人の写真など、思い思いのものを持ち込まれている	
			(外部評価) 各居室のドアに名前が書かれ、間違わないよう配慮している。大きめのクローゼットと介護用ベッド、タンスが備え付けられ、すっきりときれいに整理されている。手作りの小物や思い出の写真等も飾られ、心和む落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室のドアに名前を貼ったり、トイレや風呂場などが分かりやすいよう目印をつけるなどしている	